

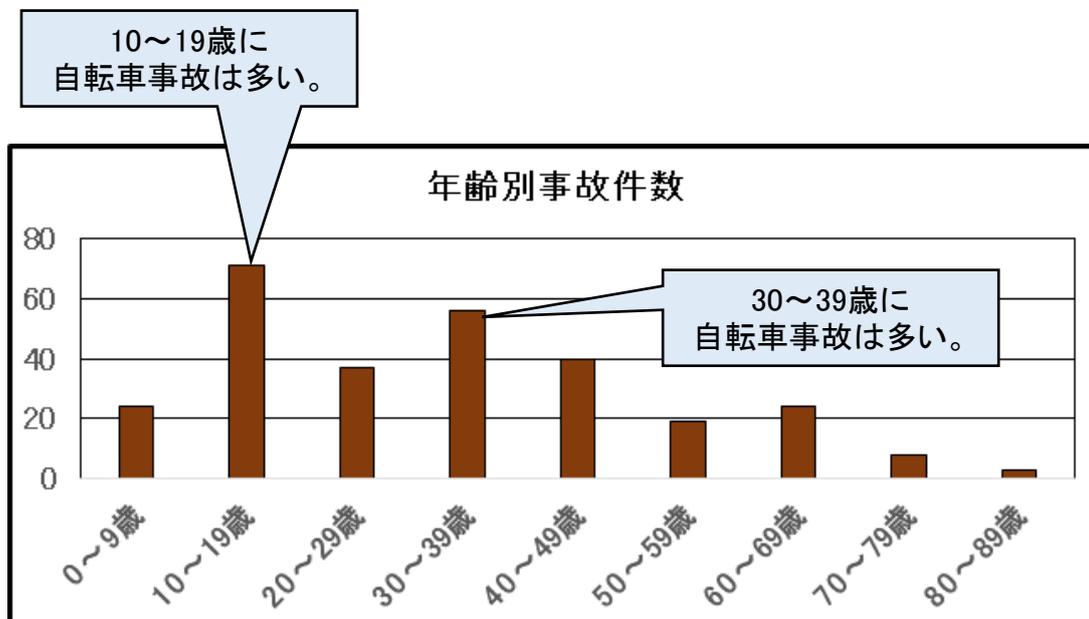
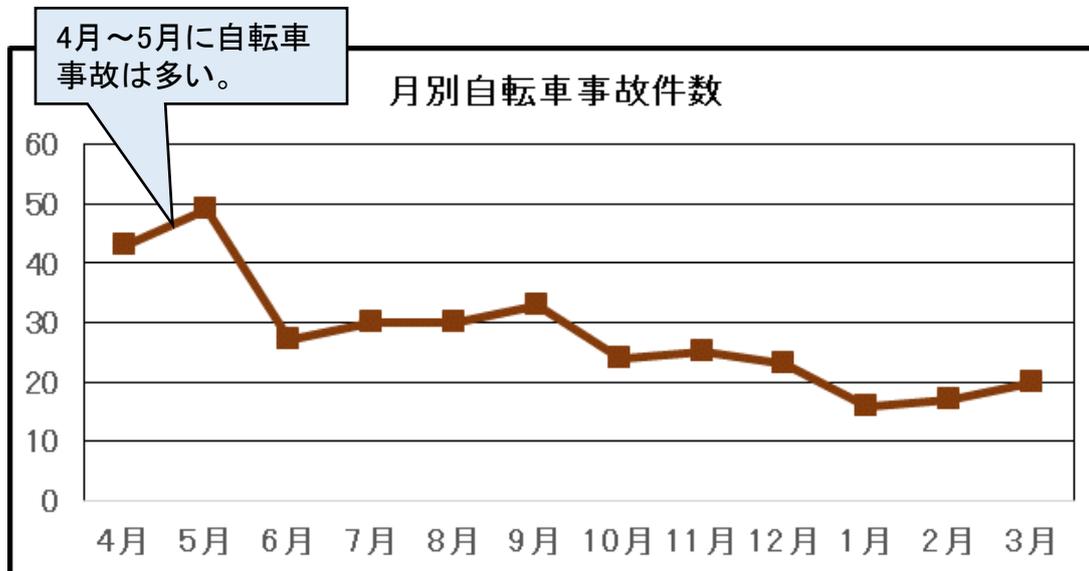
4月～5月は自転車事故が増える時期

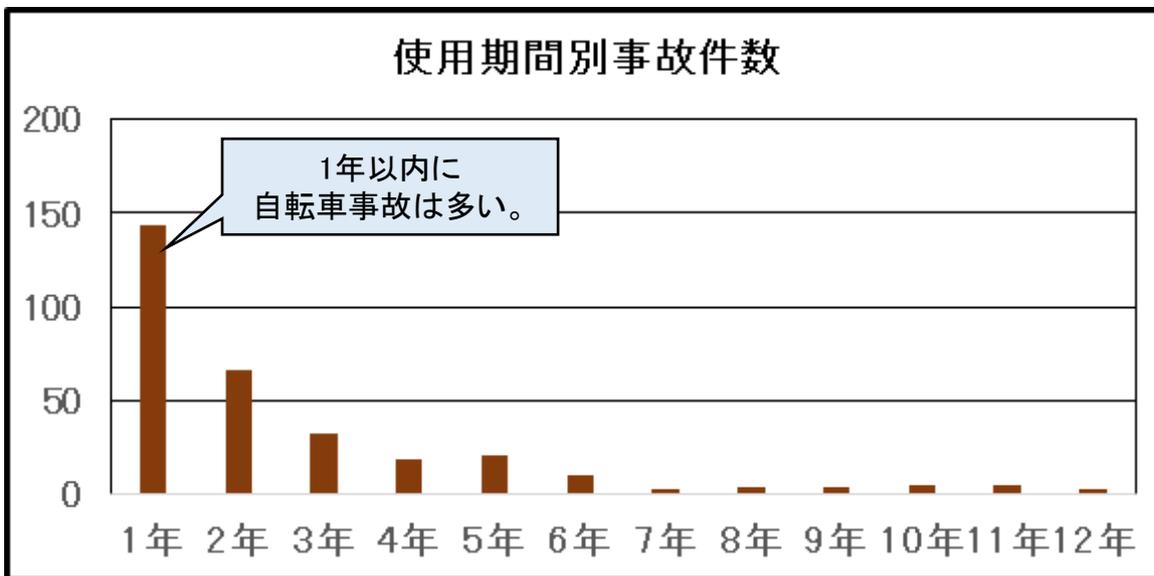
独立行政法人製品評価技術基盤機構が自転車の思わぬ事故について報告しています。

報告は、進学や通勤で自転車に乗り始める機会が増える4月～5月にかけて自転車の製品事故が一年のうち最も多く発生することから注意喚起をうながしています。

特に、年代別の事故発生状況は、10代と30代、使用期間1年以内に事故が多く見られるとのことです。

今号は事故内容を分析し事故を未然に防ぐ手立てを報告します。





どんな事故が多いのですか？



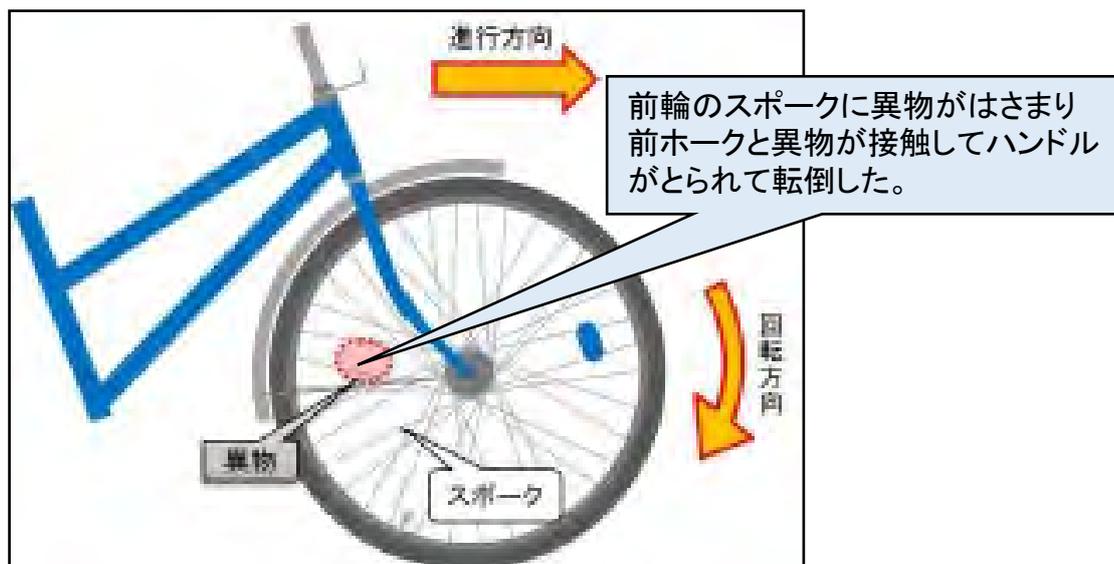
事故内容	事故件数
前輪がロック	19
バランスを崩し転倒	18
車輪の外れや破損	16
フレームの変形・破損など	12
ハンドルの空転・脱落・破損など	11
ペダルの空転・脱落・破損など	8
ブレーキに不具合	8
チェーンの外れや破損	8
その他部品の脱落・破損など	7
折りたたみ機構部での破損や固定外れ	7
サドルの変形・破損など	3
手足の巻き込み	2
後輪がロック	2
バッテリーの脱落	1

1. 前輪がロック……走行中に車輪がロックして転倒し、けがを負った

事故日：2017年5月(愛知県、10歳代・女性、軽傷)

事故の内容：自転車で走行中、前輪がロックして転倒し、打撲を負った。

事故の原因：前ホーク及びスポークに傷があり、前ホークは後方へ変形していることから、前輪に異物が巻き込まれて前輪がロックしたため、バランスを崩し転倒したものと考えられる。



予防方法：ハンドルに買い物袋、かばん、傘などをぶら下げていると、車輪に巻き込まれてロックし、そのまま滑走するうちにバランスを崩して転倒するため危険です。

荷物はハンドルにぶら下げたりせず、かごに入れてください。

2. 輪の外れや破損……走行中に車輪が外れて転倒し、けがを負った。

事故日：2015年4月(大阪府、30歳代・男性、軽傷)

事故の内容：自転車で走行中、前輪が外れて転倒、軽傷を負った。

事故の原因：被害者が前輪固定時に最終的な締め付けとして使用するクイックリリースのカムレバーを使用せず、調整ナットの締め付けのみで前輪を固定した状態で乗車していたことから、固定が緩んで前輪が脱落して転倒したものと考えられる。



予防方法：前輪をしっかりと締め付けて固定すること。

自転車に乗る前には、自転車に以下のような異常が無いか確認しましょう。
また、定期的に販売店などで自転車技士または自転車安全整備士の点検を受けましょう。

●乗車前確認

(1) 車輪への巻き込みの確認

- 泥よけに曲がりや外れなどはないか
- 走行時、ハンドルに傘や買い物袋などをかけていないか

(2) 固定部の締め付け不足・緩みの確認

- 前輪、後輪の取り付けに緩みや変形はないか
- ※クイックリリース方式の場合、レバーは正しく固定されているか
- ハンドルステムは確実に締まっているか
(はめ合わせ限界標識が隠れているか)
- サドルのシートポストは確実に締まっているか
(はめ合わせ限界標識が隠れているか)
- ペダルにがたつきや緩みはないか

(3) チェーンの確認

- チェーンに緩みがないか
- チェーンの油が切れていないか

(4) ブレーキの利きの確認

- 前後ブレーキは適切に作動しているか
- ブレーキの利きが甘い状態で乗車を続けると、走行中に制動不良などによって転倒するおそれがあります。また、自分だけでなく、歩行者などと衝突するおそれもあるため、必ず乗車前に確認してください。

(5) その他部品の確認

- タイヤの空気が抜けていないか
- (トンネル内や夜間に乗車する場合) ライトは正しい角度で適切に点灯するか

【定期点検】

(1) 自転車本体への衝撃や荷重、さびなどによる強度不足の点検

- 本体(フレーム)に亀裂やさびなどが発生していないか

(2) ブレーキ部品の点検

- ブレーキワイヤーがさびたり、伸びたりしていないか
- ブレーキシューが摩耗していないか
- ブレーキシューやリムに異物が付いていないか

(3) 車輪、その他の部品の点検

- 車輪のリムやスポークに変形や破損がないか
- タイヤが摩耗していないか
- その他、ボルトやナット、ねじに異常な緩みがないか

(4) 固定部分の点検(折りたたみ自転車)

- 折りたたみ自転車の折りたたみ部は確実に固定されているか。